

点と点をつなぐ支援

小規模多機能型居宅介護は、年を重ねて介護が必要になっても住み慣れた自宅や地域の中で家族や親しい人たちとともに、自分らしい生き方や暮らし方を継続したいという願いを実現するために制度化された、介護保険地域密着型サービスのひとつです。

既存のデイサービス・ヘルパー・ショートステイとは似ているようで異なり、暮らし全体の流れの中にある困難やその人らしい暮らしのために必要な支援を見極め、柔軟に支援を組み立てながら点と点をつないでいきます。



小規模多機能型居宅介護オレンジスタッフ

暮らしを見守るということ

私たちは皆それぞれ自己決定の場面を積み重ねながら、尊厳ある日常生活を営み、自分が主人公の人生を歩んでいます。年を重ねて介護が必要になっても自分の人生を自分らしく暮らし続けるためには、本人の価値観やこれまでの暮らし方を可能な限り崩さない支援が大切だと考えます。

そのため私たちは、日々の訪問支援の中でその方の日常や空間を「いつもと同じ」に整えること、「いつもと違う」という気付きから、心身状態を把握して支援につなげる役割も担っています。

通いや宿泊においては、自宅で

【小規模多機能型居宅介護 オレンジとは】

住み慣れた会津で暮らす皆さまの「できる」と「したい」を応援し続けます、を理念に掲げ、訪問・通い・宿泊サービスを柔軟に組み合わせながら、一人ひとりの暮らしを見守り、人生に伴走する事業所です。

すすめ院内探検隊！ VOL.117

小規模多機能型居宅介護 オレンジ

の過ごし方や生活リズムが崩れないよう、個性を尊重した関わりを大切にしています。

地域連携

地域で暮らし続けるためには、ご家族・ご友人・ご近所さんなどとの日々の連携が欠かせないため、普段から地域の方々と顔の見える関係性を築いています。そして「自分たちが望む暮らしやすい地域」をつくるために、利用者・

デジタル連携

利用者家族・地域の方々・地域包括支援センター・認知症地域支援推進員・当事業所職員などで定期的に運営推進会議を開催し、情報交換や地域活動を行っています。

身寄りなき認知症高齢者の増加以上に、遠距離・勤労介護が増えています。離れている事で生じる不安や心配を安心に変えながら、それぞれの暮らしや人生を自分らしく継続するために、一昨年前からご家族・ご親族との電子アプリ連携も開始し好評を得ています。

おわりに

これからも一期一会の出会いを大切にしながら、皆さまの暮らしを応援し続けます。



利用者の方と一緒にレクリエーション活動